第Ⅳ部門　　街道・宿場・街並みの分析

大阪工業大学工学部　正会員　○中村　美穂
大阪工業大学工学部　　清水　毅哉
大阪工業大学工学部　正会員　吉川　　眞
大阪工業大学工学部　正会員　田中　一成

１．はじめに

戦後の高度経済成長を経て都市は大きく変容し、歴史的な街並みや建造物を取り壊して新しい街がつくられた。経済成長による都市化によって生活の利便性は確実に向上したが、一方では画一的な街並みが増加し、歴史的建造物が現代の建築物の陰に埋もれてしまう状況を生み出してしまった。近世の宿場町も例外ではなく、鉄道や自動車交通の台頭に伴う街道交通の衰退によって宿場町としての機能を失った後、市街地あるいは住宅地として再利用され、かつての街並みが失われつつある。

しかしながら、現在も昔ながらの街並みが残っている街が、わずかながら存在しており、歴史的な街並みを活かして地域の活性化を図る試みが、近年、脚光を浴びつつある。このような社会的背景から、歴史的な街並みの保存・再生を目的としたまちづくりが行われるようになってきた。また、国土交通省は次世代に継承できる美しい景観を形成することを目的に、「美しい国づくり政策大綱」を 2003 年 7 月に策定した。15 の具体的施策が掲げられており、その 1 つとしての景観法が 2004 年 12 月に施行された。景観法の施行によって自治体が取り組んできた景観関連事業が法的根拠を持つものとなり、今後は歴史的な街並みの保存・再生事業が盛んになることが期待できる。

２．研究の目的と方法

歴史的な街並みを活かしたまちづくりを行うためには、その街の歴史的背景を把握する必要がある。本研究では、まちづくり支援を行うことを目的とし、宿場町における街並みの構造を明らかにする。過去と現在の街並みを比較することにより、街並みが現存している宿場町にみられる景観的特徴を把握・考察する。

研究の対象地として、五街道の東海道と中山道が通る滋賀県を選定した（図－1）。滋賀県は先の 2 つの街道をはじめ、12 の街道が通っている。さらに、琵琶湖を利用した湖上交通による物資輸送が盛んに行われ、京と東・北国を結ぶ交通の要衝であり、街道沿いには宿場町が形成されていた。

具体的な方法として、GIS を用いて街道や宿場町、他の集落の位置をプロットする。県全域からこれらの位置関係を見ることで、県内の主要街道を探る。導き出した主要街道について、文献資料と旧版地図を用いて宿場町における街並みの類型化を行う。文献資料は宿場の規模、人口などが記載されている宿村大概帳と、街道沿いの街並みが描かれている分間延絵図や名所図会を用いている。旧版地図ついては GIS を用いて幾何補正することで、年代別に宿場の街路形状の変化や集落の広がりを把握する。それらの結果から、現在も街並みが保たれている宿場町に共通する景観的特徴を探る。また、かつての街並みが比較的保たれている宿場町について 3 次元化を図ることで、現代と過去の街並みの共通点あるいは相違点を絵図と比較していくことにした。

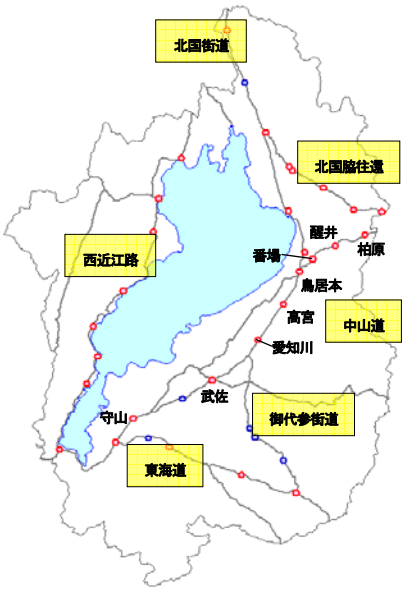
図－1　対象地

Miho NAKAMURA, Takaya SHIMIZU, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

３．宿場町の構造

県内には 35 の宿場町があり、中山道、東海道、北国街道、北国脇往還、御代参街道、西近江路沿いに分布している。とくに中山道は県内の街道の中で最も距離が長く、東海道など 4 つの街道と交差しており、8 つの宿場が存在する（図－2）。したがって、中山道は県内随一の街道であるところから、中山道沿いの宿場町に着目することにした。

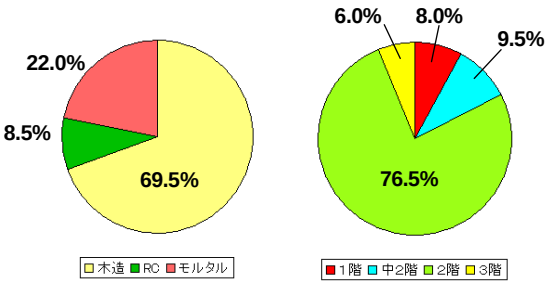
中山道分間延絵図に描かれている街道形状に着目すると、直線型、湾曲・屈曲型の大きく 2 つに分類することができる。前者は愛知川、高宮、柏原宿、後者は街道全体が湾曲している守山、番場宿、入口付近に湾曲部をもつ武佐、鳥居本、醒井宿が該当する。そこで、旧版地図を用いて街道形状の変遷を把握したところ、県南部の宿場町ほど変化が大きいことがわかった。また、絵図に描かれている要素について教育委員会の遺構調査結果と照合したところ、湾曲・屈曲型の宿場町では直線型の宿場町よりも当時の要素が多く残っていることを把握することができた。



図－2　街道と宿場町

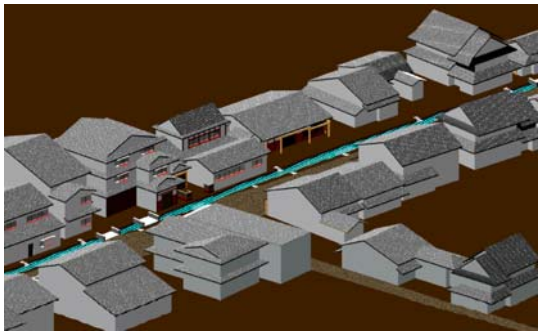
４．現在と過去の対比

旧版地図から宿場の街路形状の変化が少ない地域である醒井宿において、現在の街並みにかつての宿場町の要素がどれだけ残っているのか把握するために現地調査を行った。現在、醒井宿の建物は主要施設があった宿場の中央部では木造 2 階建てが多く、南東部では鉄筋コンクリートやモルタル構造の建物が多いことを把握することができた（図－3）。また、現地調査の結果と名所図会に収録されている絵図との景観的な対比を図ることで、現在の街並みにおける問題点を明らかにした。過去との景観対比を行うためには、現地調査の結果を用いて街道沿いの 3 次元モデルを構築することが必要である。そこで、1/2,500 の都市計画図を基に DM データを作成し、街道沿いの建物を 3D モデルとして立ち上げている（図－4）。



（ａ）建物構造　　（ｂ）階層

図－3　醒井宿の建物



図－4　現在の醒井宿

５．おわりに

中山道沿いの宿場町のなかで街並みが現存している箇所は、街道形状が湾曲・屈曲しており、かつ県北部に位置するという特徴を得ることができた。この 2 つの特徴を持つ醒井宿では街路形状の変化が少なく、絵図に描かれている施設が現存しているところから、当時の街並みが残っている地域であるといえる。しかし、3 次元モデル上で名所図会と同じ視点場から見ると、宿場の背景に高速道路が映りこむなど、歴史的な景観が喪失している箇所もみられた。本研究の成果として、中山道沿いの宿場町について現存する街並みの特徴を見出した。なかでも、醒井宿については過去との景観対比を行うことができた。今後は、醒井宿も含め、中山道沿いの宿場町における街並みの保存・改善を目指した提案を行っていきたいと考えている。

【参考文献】中近世古道調査報告書２　中山道，滋賀県教育委員会，1996